



名古屋記念病院の薬剤師は全員がプロフェッショナル。薬についてのご質問がありましたら、お気軽にお声かけください。

より良い治療法を目指して 薬剤部の紹介

その昔、薬剤師といえば医師からの処方箋に基づいて薬を調剤するイメージでしたが高度化する医療の進歩に伴い、薬剤師のあり方も変わってきているようです。

1997年に外来における全ての診療科が院外処方となり、調剤薬局との病薬連携もスタートしました。今回は名古屋記念病院薬剤部の皆さん全員が臨床薬剤師として、服薬指導・チーム医療の一員として、安全で質の高い医療に取り組んでいる話をお聞きました。

— 名古屋記念病院薬剤部の特徴は。

湯浅部長 医師・看護師・技師・事務など他の職種との垣根をなるべく減らそうということで、コミュニケーションを大事にしているところ。もうひとつは、薬の調剤・調製の他、病院機能の全体が見えるように病棟に常駐するなどさまざまな仕事に全員が携わっています。当直の仕事も交代で務めます。

— 病棟薬剤師制度が1990年に導入されていますね。

湯浅部長 本格的な稼働は、院外処方を開始した1997年からです。病棟に薬剤師

が常駐して、入院中の患者さんに新しい薬が処方されれば本人やご家族の方に説明したり、必要に応じて病棟の看護師やスタッフに対して講義もしています。それから積極的に治療にも介入させてもらっています。

— 病棟に常駐して良いところは。

湯浅部長 常にいますからドクターともすぐ顔見知りになり、どんどん会話をします。必要な相談や話し合い、臨時の会議などが気軽にできたりします。

— 薬剤師としての専門性の活動はどのようにしていますか。

湯浅部長 委員会やチーム医療という形で感染、がん、緩和、栄養、糖尿病などそれぞれの分野で活動し、勉強しています。

岡本さん 感染の委員会の担当とICT(感染症や感染制御、院内感染対策を取り扱う医療チーム)を兼任で行っています。感染に関して重要な抗生剤の正しい使い方の情報提供をしたり、患者さんの治療に関わっています。

新木さん 糖尿病とNST(栄養サポートチーム)・入院患者さんの栄養に関わっています。糖尿病に関しては、患者さんに対するクリティカルパスが昨年変わったので、今後は外来でもしっかりとフォローし

ていきます。

壁谷さん 私はがんと緩和を中心に活動しています。緩和ケアチームに所属し、患者さんの苦痛の緩和治療について他職種との話し合いを週に2回ほど行っています。また、当院はがんの患者さんが非常に多いので、薬剤部全員ががんや緩和に関われるように、部内でしっかり相談・教育できるように取り組んでいます。

— 病院と調剤薬局の病薬連携は他の施設(病院)に先駆けて始められたとか。

壁谷さん 2014年10月から始めていますが、その発端は2つありました。1つ目はがんの患者さんが薬を求めて調剤薬局を何件も探すという事例が多かったことです。1錠100円もしない一般の薬に比べ、抗がん剤は1錠何千円の薬もあります。常置していない薬局も多く「うちにはないから他に行ってください」というようなことがありました。2つ目に調剤薬局の薬剤師さんは処方箋を見ただけでは、患者さんの本当の疾患

が何か分からない。副作用から処方されている薬だとしてもそうだと判断できない、ということからです。今では抗がん剤治療をしている患者さんを中心に同意をいただいた上で情報を共有しています。

— 外来で抗がん剤の点滴を行っていますね。

壁谷さん 抗がん剤治療のために入院するのではなく、外来で点滴を行いに来るという感じです。患者さんは外来化学療法室で点滴のあと直接調剤薬局に行かれます。そこで薬は飲んでいるか、大きな副作用が出ていないかという確認をしていただくためにも病薬連携を行っています。調剤薬局としても今年(2016年)の4月より始まった「かかりつけ薬剤師の制度」で患者さんとの綿密な関わりが重要となっています。

— 病院での抗がん剤は院内調製ですか。

日比さん がんの専門注射剤・院内の抗がん剤に関しては、薬剤部で全て調製しています。以前は70%くらいでしたが、2007

年に外来化学療法室が立ち上がってからは100%です。抗がん剤というのは健康な人にとっては毒で、細胞を壊す働きを持っています。ですから調製の際に直接触れていると危険なので、外来化学療法室の中には薬剤部の抗がん剤を調製する専用の部屋があります。院内の抗がん剤注射剤は全てそこで作っています。

— その調製の処方というのは薬剤部がドクターと相談しながらですか。

日比さん 事前にレジメン※を登録しています。院内の委員会で議論し、承認されたものを登録します。その登録されたものだけを使って医師が電子カルテからオーダーをします。それを薬剤部で調製します。肺がんだけでも登録レジメンがおおよそ40種、大腸がんでも30種類くらいありますし、各がん種で何十種類もあります。

次ページへ続く

※レジメンとは、がん治療で投与する薬剤の種類や量、期間、手順などを時系列に示した計画書



壁谷めぐみさん

新木智映子さん

岡本千晴さん

日比 聡さん

薬剤部長
湯浅 周さん

長岡雅敏さん